

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (学校・地域を避難所と想定した防災キャンプ)

岡山県防災キャンプ推進事業

岡山県

【事業のポイント】

- 岡山県内2市町で、「地域」を単位に、地域住民の参画を得て、防災教育の観点で子どもたちの体験活動を実施する
- 子どもたちが地域住民とともに防災教育プログラムを体験的に学ぶことにより、自助・共助の意識を身に付けさせ、さらに地域の絆づくりにつなげていく。
- 市町村に対して、防災キャンプの取組事例を紹介することにより普及啓発を図る。



防災キャンプの振り返り(グループ発)

1. 企画

(1) 事業実施の背景

今後発生が予想される南海トラフ巨大地震のほか、予想が難しい上に、今までの予想を超えるような大雨による洪水が近年頻発している状況であることから、住民への防災意識の普及啓発や教育が、これまで以上に求められている。

(2) ねらい

- 子どもたちの体験活動については、「地域」を基礎として、地域の関係機関など住民の参画を得ながら防災キャンプの実行委員会を組織して実施し、地域の教育資源を活用した持続的な取組となるようにしていく。
- 被災時を想定した学校等の避難所における生活体験や防災教育プログラムを地域住民と共に実施することにより、防災の知識を体験的に身につけさせるとともに、自助・共助の意識を身につけさせ、さらには地域の絆づくりにつなげていく。
- 他の市町村に対して、防災キャンプの事例を紹介していき、この取組に広がりを持たせていく。

2. 実施概要

【美作市に再委託】実施場所:美作市立勝田小学校

(1) 地域プラットフォーム形成

- ・勝田地区自治振興協議会・梶並地区自治振興協議会・勝田地区自主防災組織
- ・美作市消防団勝田方面隊長・美作市消防署・日本防災士協会・勝田小学校PTA会長
- ・栄養委員・愛育委員・主任児童委員・勝田小学校
- ・美作市総務部危機管理室・美作市教育委員会 社会教育課

(2) 具体的な取組の概要

8/27(土) <一日目>

- 12:30 開講式・オリエンテーション (趣旨説明・各班リーダー決定)
- 13:00 防災マップ・ハザードマップ学習【美作市職員・防災士】
- 14:30 避難所運営ゲーム【防災士】(避難所を運営する上でのどのような役割・仕事が必要であるか考える)
- 16:20 土石流の学習【防災士】(土砂災害の仕組みを模型で学ぶ)
- 16:40 土のう積み体験【消防団】(2人1組になり70個作成)
- 17:30 応急手当講習【消防署】(骨折の応急手当、搬送法、心肺蘇生法等を学ぶ)
- 18:30 配給物資による夕食【栄養委員、愛育委員、主任児童委員】(アルファ米を調理、食事)
- 19:30 新聞紙スリッパ作成【防災士】
- 21:00 寝床設営・就寝

8/28(日) <二日目>

- 6:30 起床・活動準備(着替え・ラジオ体操)
- 7:30 配給物資による朝食【栄養委員、愛育委員、主任児童委員】(アルファ米を調理、食事)
- 8:00 避難所撤収作業
- 8:30 まとめ・振り返り(これまでの活動を模造紙にまとめ、各班にて振り返り)
- 9:00 講評・閉講式



土のうをつくる様



Tシャツで担架をつくり搬送法を学ぶ

(3) 実績スケジュール

月 日	内 容
7月5日	勝田小学校区防災キャンプ 第1回企画運営委員会
7月19日	勝田小学校区防災キャンプ 第2回企画運営委員会
8月27日～8月28日	勝田小学校区防災キャンプ

2. 実施概要

【矢掛町に再委託】実施場所: 矢掛町立川面小学校

(1) 地域プラットフォーム形成

- ・矢掛町教育委員会
- ・矢掛町消防団(川面分団)
- ・川面小学校PTA
- ・矢掛町社会教育委員
- ・矢掛町川面公民館
- ・矢掛町川面地区自治協議会
- ・矢掛町役場総務企画課(防災関係部局)
- ・井原地区消防組合 矢掛出張所

(2) 具体的な取組の概要

9/10(土) <一日目>

- 12:30 受付
- 13:00 開会行事
- 13:15 講話「土砂災害について」
- 14:30 講話・体験実習「災害発生時の心構え」と応急処置
- 16:00 ワークショップ「避難所を考える」・防災グッズの作成
- 18:00 夕食「非常食の試食」
- 19:00 ワークショップ「就寝スペースをつくろう」
- 21:00 就寝

9/11(日) <二日目>

- 6:30 起床・身支度・片づけ
- 7:30 朝食「非常食の試食」
- 8:00 体験実習「水防体験」「災害ダイヤル体験」
- 9:30 体験実習「救急講習」
- 11:00 閉会行事



救急法の体験実習の様



段ボールで就寝スペース作成の

(3) 開催実績スケジュール

月 日	内 容
6月下旬	事業日程の調整及び運営体制の検討
7月8日	参加者募集
8月23日	第1回矢掛町防災キャンプ事業企画運営委員会(事前打ち合わせ)
9月10日～11日	矢掛町防災キャンプ
10月5日	第2回矢掛町防災キャンプ事業企画運営委員会(反省会)

3. 成果と課題

(1) 成果

- ・非常食だけの生活体験や、様々な地域の方々が避難してくるという想定のもと、老若男女それぞれの視点で相手の立場に立って、考えることや団体行動での役割の重要性を学習することができた。
- ・知識の学習だけでなく、実習体験を通じて、リーダーシップや自主性を高学年が自然と発揮していた。
- ・小学校、公民館、自治会、消防団など地域に根差した団体とその構成員を主体とし、消防組合や日本赤十字社など専門家の知識や経験の指導をいただきながら、実施できたことが大変よかった。
- ・防災への取組は地域住民や子どもたちの防災意識の高揚や地域住民の絆づくりを図ることができ、地域防災ネットワーク構築の機運を醸成するものであった。
- ・ワークショップを取り入れることで、児童と保護者や地域の方が一緒に防災について考える機会となり、世代間の価値観の違い等も体験できた。
- ・本事業については、教育委員会・部局(防災担当部局・消防本部等)、学校(教員・保護者)、地域団体(自主防衛隊組織・愛育委員・栄養委員)等多様な団体が連携しながら実施することで、行政・学校・地域・家庭の連携体制を構築することができた。
- ・災害について学び、地域の実態を知り、自分たちの住んでいる所の危険箇所等を考えていく中で、防災意識を高めることができていた。また、避難した直後の設定で、避難所生活での役割や注意すべき点など、教えられるのではなく、自分たちで考えることで、自助・公助・共助の視点で物事を広くとらえ、地域での支え合いや助け合いの必要性を学ぶことができていた。
- ・親子や家族で参加している子どもが多く、親子で参加することは、体験活動を通じて親子でふれあう良い機会となるのはもちろんのこと、それに加え、親子と一緒に防災について考え・体験することは、家庭での防災教育につながり、大変意義があり、より効果的であった。

(2) 課題

- ・子ども主体の事業ではあるが、地域住民が子どもに防災を通じながら地域のことを伝承していく機会でもあるため、可能な限り保護者や地域住民にも参加を促す必要がある。
- ・体験活動等は一生懸命取り組めていても、就寝時に防災キャンプという意識が薄れている児童が多いため、就寝前の児童への意識づけが必要である。
- ・自治協議会への説明が不十分で、地域の方の参加が少なかったため、参加募集のやり方を考えていく必要がある。
- ・暑い時期の開催であるため、暑さのあまり体育館での講義等活動に支障を来す場合がある。活動内容や気温の状況によっては、防暑対策が必要である。

4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

- ・青少年体験活動を通じ、地域の課題や問題などを共有し、子どもを中心に据えた地域づくりを行う。また、複数機関と連携して実施することでプログラムの充実化が可能になる。
- ・子どもたちのための体験活動の取組を地域が主体となって実施していくためには、まずは防災キャンプなどの体験活動に、地域の関係機関や地域の住民にも実際に参画してもらい、その必要性を感じてもらうことが重要であると考えます。
- ・今後は、未実施の地域で開催していき、多くの住民に体験してもらう取組を続けていくよう市町村に促していく必要がある。実施した地域については、一過性のものではなく今後も継続していくことができるよう、地域の核となる関係機関等に実施を促すとともに、実施にあたってはノウハウや他の実施事例の提供等により支援していく必要がある。
- ・これから実施しようとする地域への手引きとなるよう、引き続き他の都道府県や地域での優良事例を収集しWeb等で情報提供することにより、地域プラットフォームの形成につなげていく。

5. 団体プロフィール

岡山県教育庁生涯学習課
〒700-8670
岡山県岡山市北区内山下2-4-6
TEL:086-226-7596
FAX:224-2035



岡山県「ばっちり！モグモグ」生活リズム向上
マスコットキャラクター

美作市教育委員会社会教育課
〒709-4234
岡山県美作市江見945
TEL:0868-72-2900



矢掛町教育委員会教育課
〒714-1201
小田郡矢掛町矢掛2677-1
TEL:0866-82-2100
FAX:0866-82-9101

